



生命環境学部・大学院医工農学総合教育部生命環境学専攻 この一年（令和5年4月～令和6年3月）

令和5年4月

4月6日(水) 令和5年度 山梨大学 入学式

YCC 県民文化ホールにおいて入学式を挙行了しました。

生命環境学域では、学部164名、修士課程43名、博士課程8名、計215名の新入生が、新生活をスタートさせました。式では、中村和彦学長が「考える力、判断する力、わかりやすく伝える力、そして学びに向かう力を高め、かけがえのないこの大学時代を『無限の可能性』を大切にしながら成長を続けていただきたい」と式辞を述べました。



（式辞を述べる中村学長）

令和4年度 生命環境学域 学生表彰

生命環境学域では、学部生として、優秀な成績を収めた学生及びその行為が社会的に高く評価された学生、また、修士課程で学術研究活動において顕著な業績を挙げたと認められた修了予定者等、生命環境学域学生の模範となり得ると認められた学生に対し学生表彰を行っております。

令和4年度は38名の学生が対象となり、3月23日(木)に学部4年次生（卒業生）、4月10日(月)に学部1～3年次生（現2～4年次）及び修士課程1年次生（現2年次生）の表彰を行いました。



（地域社会システム学科の学部1～3年次生の表彰者）

新入生オリエンテーションを実施

各学科において、1年生の親睦を深めるためオリエンテーションを実施しました。新入生にとって入学後の大きなハードルは「友達づくり」ではと思いますが、オリエンテーションはその大きな後押しになっています。



生命工学科（上段 左）

他の人を紹介する「他己紹介」を実施
お互いを知るきっかけになりました



地域食物科学科（上段 右）

忍野村にて郷土食「ほうとう」作り
おいしくできて大満足です

環境科学科（下段 左）

こちらは1泊2日の合宿スタイル
夕食は焼きそばパーティーでした

地域社会システム学科（下段 右）

3年生のファシリテーターのもと
すごろくトーキングを行いました



3年ぶりに対面での通常授業が再開

今年度前期の授業から、全ての科目において対面での通常授業が可能となり、キャンパスに元の賑わいが戻ってきました。生命環境学部のユニークな授業の一部をご紹介します。



◆ 生化学実験

生命工学科3年生は、平日午後1年中、実習を行います。5月は遺伝子組換え実験の初歩となる生化学実験に取り組みました。手際よく作業を進めています。



◆ 野菜・果樹栽培実習

地域食物科学科3年生。シャインマスカットの房作り、ジベレリン処理、笠かけを行いました。



◆ 生命環境基礎ゼミ

環境科学科1年生。寒天培地に生えてきた乳酸菌を数えているところです。ライトテーブルに培地をのせて工夫する学生も。



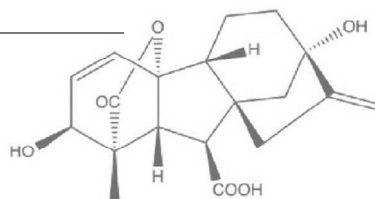
◆ 観光政策科学基礎実習

地域社会システム学科観光政策科学特別コース1年生。自分たちが企画した観光コースを視察し、造り手側の見方を学びます。

令和5年5月

ワイン科学研究センター 鈴木俊二教授の研究グループが新しいジベレリン様活性を持つ化合物の単離に成功

ワイン科学研究センター 鈴木俊二教授らの研究グループは、植物ホルモンであるジベレリン*の受容体に対する新規アゴニスト分子「ジフェガラクチン」の単離に成功しました。コムギ無細胞系を利用した化合物スクリーニングによって単離されたジフェガラクチンはブドウ、レタス、みかんなど様々な植物に対してジベレリン様の活性を示すことが確認されました。また、ジフェガラクチンはジベレリン受容体の中でも主にB型の受容体に作用することから、植物ゲノム上に複数種類存在するジベレリン受容体の役割分担を解明する研究にも役立つことが期待されます。この研究成果に関する論文は、Communications Biology 誌に掲載されました。



*植物の成長、発芽、花芽の形成、果実の肥大促進など多くの生理現象にかかわる植物ホルモン

5月13日(土) 国際ブドウ・ワイン科学コンソーシアム Oenoviti International 「SYMPOSIUM 2023 日本大会」開催

甲府キャンパスにおいて、国際ブドウ・ワイン科学コンソーシアムが開催され、10カ国からワイン技術者、研究者、学生など約100名が参加しました。Oenoviti Internationalは、世界的な視野でワイン産業の課題解決に取り組むことを目的として設立され、フランス・ボルドー大学を主幹とし、世界24カ国のブドウ・ワイン関係の教育研究機関が加盟する国際的なネットワークです。本学は、このネットワークに2016年に加入し、ワイン科学研究センターを中心に、世界中の研究者と情報交換を行ってきました。

シンポジウムでは「ワイン事業経営に”自然資本”を取り入れることの破壊的影響」をテーマに、フランスやアルゼンチン、カナダなど7カ国12名の研究者がそれぞれの研究成果を発表しました。



| Oenoviti international 代表
P. L. Teissedre 教授 (左)

| 会場の様子
(右)



令和 5 年 6 月

6 月 6 日(火) 大村智記念基金奨学金授与式

大村智記念学術館において、山梨大学大村智記念基金奨学金授与式を行いました。この奨学金は本学独自の制度であり、学部学生の学業を奨励するものです。生命環境学部からは各学科 1 名、計 4 名の学生に目録と記念色紙が授与されました。

生命工学科 遠藤芽依さん、地域食物科学科 成嶋千鶴さん、
環境科学科 藤村泰詩さん、地域社会システム学科 門前まいさん

(受給者のみなさんと、鈴木学域長(中央)、奥田理事(右))



6 月 6 日(火) 山梨大学ワイン科学士認定証書授与式

大村智記念学術館において、第 15 回 山梨大学ワイン科学士認定証書授与式を挙行し、ワイン科学士 14 名・準ワイン科学士 7 名を認定しました。ワイン科学士は、山梨大学ワイン・フロンティアリーダー養成プログラムを修了し、認定試験に合格した方に授与されるものです。このプログラムは、国産ワインの品質の向上、地域ブランド化、さらにはグローバルスタンダード化を中核となって推進できるフロンティアリーダーの養成を目指しており、2015 年に文部科学大臣から職業実践力育成プログラムに認定されたものです。

6 月 22 日(水) 就職支援ガイダンスを開催しました

生命環境学部では学部独自に就職支援活動を行っており、その一環として年に数回ガイダンスやセミナー等を開催しています。今回は、「インターンシップ選考対策講座」として、株式会社リクルートから講師の方をお招きし、ご講義いただきました。講義の前半ではエントリーシートの書き方について学習し、後半では学生が実際に自己 PR の作成に取り組み、就職活動を体験する良い機会となりました。

6 月 29 日(木) 中学生が見学に来ました

山梨大学教育学部附属中学校の 1 年生 約 30 名が、校外学習の一環として大学施設を見学に来ました。発生工学研究センターでは、若山照彦センター長や学生らが研究内容や実験機器について説明しました。ワイン科学研究センターでは、鈴木俊二センター長らが講義を行い、センターの中を案内しました。どちらの施設でも、生徒たちはメモをとったり深く頷いたり熱心に話を聞いていました。



(発生工学研究センターにて、学生の説明を熱心に聞く生徒たち)

株式会社はくばくとの共同研究体制を強化

令和 2 年度に採択された文部科学省 科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」の取り組みの一つとして、株式会社はくばくと大麦についての共同研究を実施しています。このたび、共同研究体制強化のため、同社社員の丸山聡子さんが、クロスアポイントメント制度を活用し地域食物科学科 特任助教に着任し、さらに大学院に社会人ドクターとして入学しました。今後は、地域食物科学科望月和樹教授らとともに、基礎から臨床につながるシームレスな共同研究を推進していきます。

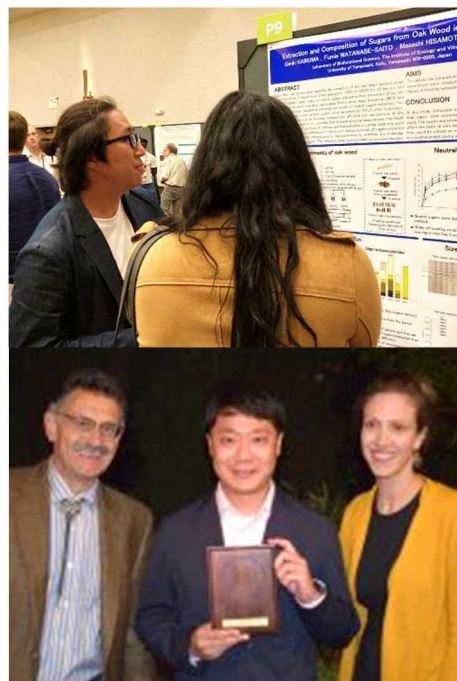


(丸山特任助教(左)と望月教授(右))

74th ASEV National Conference 2023にて 博士課程の学生・修了生が活躍しました

6月26日(月)～29日(木)に、アメリカ・カリフォルニア州で開催された74th ASEV National Conference 2023にて、大学院博士課程（生命農学コース）3年の貝沼元気さんがポスター発表を行いました。タイトルは「Extraction and composition of sugars from oak wood in model solution」で、ワインを保存するオーク樽から抽出される糖などの物質がワインに与える影響について、モデル溶液を使用して分析を行いました。

また、同カンファレンスにおいて、大学院博士課程（生命農学コース）3年（当時）の森大輔さん（現 日本振興株式会社）が日本人で初めてブドウ栽培分野で最優秀論文賞に選ばれました。論文タイトルは「Electrical Stimulation as a Potential Technique for Enlarging Table Grape Berry Size by Enhancing Cell Division」で、電気刺激による果実肥大の分子メカニズムの一端を明らかにしたものです。生食用ブドウの品質向上につながる研究であることが評価されました。



（上：貝沼さん(左) 下：森さん(中央)）

令和5年7月

環境科学科の島弘幸教授らの研究グループが イネが自重で倒れないためには穂に最も近い節間の特性が重要であることを発見

秋田県立大学、岩手生物工学研究センター、立命館大学、山梨大学（島弘幸教授）の共同研究グループは、材料力学の弾性柱理論を応用し、どのような形あるいは硬さの条件でイネが倒伏するかを定量的に明らかにする力学モデルの構築に初めて成功しました。この力学モデルは、特性の異なるイネを比較できるため、これまで解析できなかった品種間の比較も可能になります。この力学モデルを用いた解析により、穂に最も近い節間の特性が自重で倒れないために重要であることが明らかになりました。このことから、穂に最も近い節間の特性を改良することで、イネの倒伏耐性を向上できる可能性が示唆されました。



ホームページをリニューアルしました

ホームページを刷新しました。各 SNS（Instagram、Facebook、X（旧 Twitter）、YouTube）でも、実験・実習の様子やイベントのお知らせなど、学部・専攻の最新情報を発信しています。ぜひご覧ください！



堀内のり子 衆議院議員・鈴木直道 北海道知事が ワイン科学研究センターを視察

7月20日(木)、堀内のり子 衆議院議員がワイン科学研究センターを訪れ、鈴木俊二センター長による施設案内の後、ワインの官能評価を体験しました。地下セラーに眠る1950年製造のワインを「山梨ワイン産業の貴重な歴史」とコメントいただきました。

さらに、7月24日(月)、鈴木直道 北海道知事が同センターを訪れました。これは北海道が主催する「北海道ワインアカデミー」に係る訪問で、施設の視察および意見交換を行いました。鈴木知事から本学との連携強化に期待を寄せるお言葉をいただきました。（官能評価をする堀内衆議院議員）

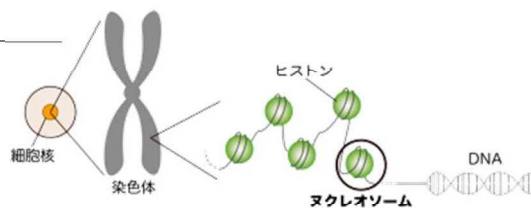


令和5年8月

生命工学科の石内崇士准教授らの研究グループが 新規技術の開発により受精卵のゲノム構造を解明

山梨大学（石内崇士准教授・大学院博士課程（生命工学コース）1年の坂本瑞季さん）、金沢大学、九州大学の研究グループは、新たな解析技術を開発することで、これまで不明であったマウス受精卵の詳細なゲノム構造を明らかにしました。今回の発見は将来的に不妊・流産の原因解明など、生殖医療に役立つことが期待されます。

本研究成果は、米国の雑誌「Genes & Development」に掲載され、表紙を飾りました。



高校生への公開授業を開催

8月2日(水)～3日(木)、山梨県内の高校生を対象に、公開授業「自然と社会の共生科学」を開催しました。これは、大学の授業に触れる機会を通して、大学で学ぶ動機を見つけ、進学への意欲を高めるきっかけとなるよう毎年開催しているもので、今年度は全8講義を開講しました。

（環境科学科の小林拓准教授の講義「降水のメカニズム～雪の結晶を作ってみよう」）



8月5日(土) 対面型オープンキャンパスを開催

午前・午後の2部制で、学科ごとに学科紹介、研究紹介、施設見学、ミニ実験、模擬講義、大学生活紹介、保護者向け説明等を行いました。今年度は参加者に喜んでいただけるよう、附属農場で収穫した果物や野菜、新学部グッズ（多機能ボールペン）を配布しました。猛暑の中、約600名の高校生・保護者にご参加いただきました。（ミニ実験に挑戦する高校生）



令和5年9月

9月30日(土) 第3回日本の酒シンポジウムを開催

ワイン科学研究センターは、新潟大学 日本酒学センター 及び 鹿児島大学 焼酎・発酵学教育研究センターと「第3回日本の酒シンポジウム～楽酒～焼酎・日本酒・ワイン～日本酒を語る～」を開催しました。3大学は、令和3年に日本の酒（日本産酒類）に係わる教育研究活動のさらなる推進を目指し連携協定を締結しています。

第1部では、山梨大学において、各センターの取り組みや最先端研究について発表を行いました。

第2部では、ホテル談露館において、焼酎・日本酒・ワイン・ウイスキーの飲み方について各酒類の専門家にご講演いただいた後、テイスティングを実施し、83銘柄の中から飲み比べを楽しみました。

また、前日には、3大学の学生によるポスター発表会を開き、互いの研究成果について意見交換を行いました。



（左：第1部の様子（オンライン同時配信） 中：テイスティングを楽しむ参加者 右：前日のポスター発表も盛り上がりました）

令和5年10月

令和5年度 山梨大学学業成績優秀者表彰式

本学では、学業において特に優秀な成績を収め、かつ本学学生の模範となると認められた学生を学業成績優秀者として表彰しています。

10月2日(月)、大村記念ホールにおいて学業成績優秀者表彰式を行い、生命環境学部からは各学科1名、計4名の学生が表彰されました。

生命工学科 吉田 優さん、地域食物科学科 保坂文香さん、
環境科学科 志村優太さん、地域社会システム学科 功刀なつさん

(表彰されたみなさんと鈴木学域長(中央))



10月6日(金) 高校生が見学に来ました

長野県篠ノ井高等学校の1年生 約40名が生命環境学部を訪れました。

前半は環境科学科の石平博教授による学部・学科の説明と先輩学生による学生生活紹介を聞いていただき、より身近にキャンパスライフを感じていただきました。後半は環境科学科クイズを実施し、正解数が多かった生徒さんに記念品をプレゼントしたところ、大変喜んでいただけました。

(クイズ企画は大盛り上がりでした)

地域食物科学科 秋のオープンキャンパスを開催

10月14日(土)、地域食物科学科 秋のオープンキャンパスを開催し、多くの高校生・保護者にご参加いただきました。夏に続き2度目のオープンキャンパスとなる今回は、「聞く(教員による研究紹介)」、「見る(施設見学)」、「感じる(在校生・卒業生による学科紹介)」、「知る(保護者向け説明会)」の4つの企画を実施しました。(「感じる」在校生による学科紹介)



就職活動座談会&就職支援セミナーを開催

10月18日(水)、就職活動座談会を開催しました。就職活動経験者として、学部4年生・修士2年生の計8名から就職活動について報告があった後、下級生を交えて情報交換を行いました。

また、10月19日(木)、就職支援セミナーを開催しました。今回は、「後期スタートアップセミナー」として株式会社マイナビから講師を招き、秋冬インターンシップの基本や自己分析・企業分析の方法についてご講義いただきました。生命環境学部では引き続き、将来の目標に向かって頑張る学生をサポートしていきます。

令和5年度 山梨大学ワインセミナーを開催

10月21日(土)、フクラシア品川クリスタル(東京都)において、山梨大学ワインセミナーを開催し、首都圏等から約60名が参加しました。これはワイン科学研究センターが毎年開催しているもので、本学教員、山梨県および山梨県ワイン酒造組合の専門家の解説をききながら、ワインをテイastingするイベントです。今回は、地域食物科学科 乙黒美彩准教授・斉藤史恵助教、山梨県果樹試験場 新谷勝広氏の講演の後、「2023年 日本ワインコンクール」で受賞したワインを含む、厳選した7種類のテイastingを行いました。

(テイastingでは、参加者は色・香り・味わい等の違いを体感しました)



発生工学研究センターの若山清香助教らの研究グループが哺乳類の初期発生における重力の影響を明らかにしました

発生工学研究センターの若山清香助教・若山照彦教授、生命工学科の幸田尚教授、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、日本宇宙フォーラム、理化学研究所、明治大学等からなる研究グループは、凍結したマウス 2 細胞期胚を国際宇宙ステーションへ打ち上げ、宇宙で解凍し、重力がない環境下でも哺乳類の胚が正常に発生できるのかを調べました。マウス 2 細胞期胚は微小重力でも胚盤胞期まで発生でき、胎児側と胎盤側の細胞へ正しく分化できることが明らかとなりました。一部の胚は胎児側の細胞が 2 ケ所に分かれており、一卵性双生児が産まれる可能性も示されました。本成果は「Cell」の姉妹誌「iScience」にオンライン掲載され、哺乳類が宇宙でも繁殖できる可能性を示した世界初の論文となりました。



令和 5 年 11 月

11 月 4 日(土) ペアレンツデーを開催

甲府キャンパスの大学祭 2 日目に合わせて「ペアレンツデー」を開催しました。これは、お子様のキャンパスライフの一端をご体験いただければと思い、生命環境学部と工学部の在校生の保護者を対象に開催したものです。生命環境学部は約 70 名にお越しいただき、両学部に関連したセンター（クリーンエネルギー研究センター、燃料電池ナノ材料研究センター、クリスタル科学研究センター、ワイン科学研究センター）等の見学や特別講演会にご参加いただきました。（燃料電池ナノ材料研究センターの見学）



11 月 12 日(日) フランス「サロン・デ・ヴァン・ジャポネ」に参加



（山梨大学ワインを味わう参加者）

フランスで開催された日本ワイン試飲会「第 1 回 サロン・デ・ヴァン・ジャポネ」に、ワイン科学研究センターから乙黒美彩准教授が参加しました。この試飲会は、日本各地のワインの個性と魅力をフランスの方々に知ってもらうことを目的に、フランス有数のワイン産地であるブルゴーニュにおいて初めて開催されたものです。山梨や長野、奈良や岡山などから約 30 のワイナリーが出展し、70 種類以上のワインが出品されました。山梨大学ワインを試飲した参加者からは、「素晴らしい、お気に入り！」「豊かで甘い」といったコメントをいただきました。試飲会の様子は NHK で放送されました。

11 月 20 日(月)～22 日(水) 「アグリビジネス創出フェア 2023」に出展

東京ビックサイトにおいて「アグリビジネス創出フェア 2023」が開催され、ワイン科学研究センターの柳田藤寿教授が食品ゾーンに出展しました。ブースにご来場いただいた方には、白州屋まめ吉（山梨県北杜市）と共同開発したヴィーガンオーツバーや大豆で作った飲むヨーグルトをご試食いただき、「おいしい、食べやすい」「腹持ちが良さそう！」といった感想をいただきました。また、20 日(月)には、「乳酸菌や酵母を用いた発酵食品の開発」と題して柳田教授がプレゼンテーションを行い、多くの方にお集まりいただきました。（柳田教授(右)と柳田研究室の大学院生）



令和 5 年 12 月

令和 5 年度 山梨大学男女共同参画学術研究奨励賞に 発生工学研究センターの若山清香助教が選ばれました

12月5日(火)、大村智記念学術館において、令和5年度「山梨大学男女共同参画学術研究奨励賞」表彰式が開かれました。この賞は、本学に所属する優れた研究成果を挙げた女性研究者に贈られるもので、研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成や男女共同参画を促進することを目的としています。今年度は、発生工学研究センターの若山清香助教が「宇宙繁殖学～人類は宇宙で子孫を残せるのかを探求する～」の研究題目で「優秀賞」に選ばれました。(受賞の挨拶をする若山助教)

研究成果の1つを
7ページで紹介しています



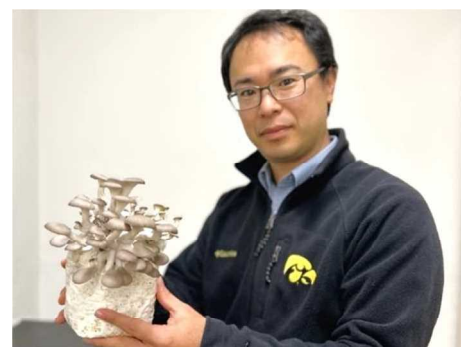
環境科学科の片岡良太准教授がクラウドファンディングを達成

「食品ロスをなくそう！食品残渣を活用したキノコ栽培へのチャレンジ！」

環境科学科の片岡良太准教授が、地域で発生した食品残渣を再資源化し、有効活用することを目指した地域循環型食料生産システムを創る研究プロジェクトを立ち上げ、クラウドファンディングに挑戦しました。

本プロジェクトは、日本の食料自給率の低さや将来世代まで安定的に食料を確保できるのかという不安を払拭するため、新しいリサイクルのカタチとして未利用資源を活用した機能性キノコ栽培を実施するものです。

60日間のクラウドファンディングでは、目標130万円のところ、約168万円のご支援をいただき、プロジェクト達成となりました。寄附金はキノコ生産規模拡大のための環境整備費等として大切に使用いたします。(食品残渣で栽培したキノコと片岡准教授)



日本ブドウ・ワイン学会 2023 名古屋大会で受賞

12月16日(土)～17日(日)、名城大学 天白キャンパスで開催された日本ブドウ・ワイン学会 2023 名古屋大会において、本学部の教員と学生が以下の賞を受賞しました。

日本ブドウ・ワイン学会技術賞

受賞者：生命環境学域 齊藤史恵助教・中川洋史准教授
岸本宗和准教授・久本雅嗣准教授・奥田徹教授

受賞題目：「ワインの産膜汚染防止のための基礎的研究」(左から奥田教授、齊藤助教、貝沼さん、久本准教授)
ワイン醸造で問題となっている産膜汚染(微生物汚染)の抑制に向けた基礎研究で、今後の日本ワインの技術を根幹から支える研究であると評価されました。



大会発表賞(口頭の部)

受賞者：大学院博士課程(生命農学コース)3年 貝沼元気さん(指導教員：奥田徹教授)

受賞題目：「ワイン用樽材から抽出される糖類に関する研究」

ワイン醸造に用いられる樽材から抽出される糖類の量や組成、その重要性について報告しました。

大会発表賞(ポスターの部)

受賞者：大学院修士課程(食物・ワイン科学コース)2年 三上法香さん(指導教員：榎真一助教)

受賞題目：「甲州ブドウの矮性育種に向けた植物ホルモン応答遺伝子 VvSAUR50 の機能評価」

甲州の樹勢に影響を与える原因遺伝子の機能について報告しました。

発生工学研究センターの若山照彦教授らのプロジェクトが JAXA に採択されました

発生工学研究センターの若山照彦教授が、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の「”きぼう”船内利用フラグシップミッション募集事業」に採択されました。本事業は、歴史に残る成果の創出を目指し、「”きぼう”を使った社会課題解決及び知の創造に貢献する研究」及び「人類の宇宙への進出に貢献する研究」を募集するものです。厳正な審査を経て5件が採択され、本学からは宇宙生殖学の世界トップランナーである若山教授の提案が選ばれました。

事業名：マウスの生殖と継世代プロセスに及ぼす宇宙環境の影響

事業概要：哺乳類の宇宙生殖について、国際宇宙ステーション（ISS）で体外受精や、受精から胚盤胞への発生、着床、胎盤や生殖細胞の形成、性分化など、全範囲にわたって明らかにする。そして地球に胚を持ち帰り出産させ、宇宙環境の継世代への影響を明らかにする。

事業期間：令和6年1月～令和12年3月（予定） 事業規模：総額 約 1.5 億円（予定）



令和6年1月

1月17日(水) 蘇州大学の学生が環境科学科を訪問

蘇州大学の学生20名が来学し、生命環境学部と工学部の研究室を訪問しました。生命環境学部では環境科学科の片岡研究室を見学しました。

片岡良太准教授と研究室の学生が研究内容を紹介した後、研究施設を案内し、実験器具等について説明しました。蘇州大学の学生は、積極的に質問したり、深く頷いたり大変熱心に話を聞いていました。

（片岡准教授(中央)に次々に質問する蘇州大学の学生たち）



学生が「第34回 山梨県管打楽器ソロコンテスト」で入賞

1月27日(土)、北杜市須玉ふれあい館ホールで開催された「第34回 山梨県管打楽器ソロコンテスト」の大学生・一般部門において、地域社会システム学科の小嶋美玖さんがホルン演奏で入賞しました。

金管楽器の部 第2位・北杜市長賞（同時受賞）

地域社会システム学科4年 小嶋美玖さん

（ピアノ伴奏：教育学部 障害児教育コース4年 手塚はなさん）

（左から小嶋さん・手塚さん）



令和6年2月

2月5日(月) 令和5年度 学生表彰式を挙行

本学では、優秀な成績を収めた学生及びその行為が社会的に高く評価される等学生の模範となりうると認められた学生を表彰しています。今年度は大学院修士課程 生命環境学専攻から3名生が受賞しました。

バイオサイエンスコース1年 原澤 彩さん（指導教員：望月和樹教授）

食物・ワイン科学コース1年 後藤理那さん（指導教員：斉藤史恵助教）

食物・ワイン科学コース2年 高野真綾さん（指導教員：鈴木俊二教授）

（左から奥田理事、高野さん、後藤さん、原澤さん、中村学長）



地域社会システム学科「観光政策科学実習 BⅡ」のご紹介

地域社会システム学科 観光政策科学特別コースでは、観光産業・ビジネスの先進事例を学ぶため、観光に関連した企業・施設を視察研修する「観光政策科学実習 BⅡ」を実施しています。今年度は以下を視察しました。



◆ 9 月（高尾山）

日本遺産の高尾山、高尾 599 ミュージアム、LAC 高尾（ワーケーション・リモートワーク施設）を視察しました。



◆ 11 月（都内）

2020 年にオープンした東京国際クルーズターミナル、区内の町工場を公開するおたオープンファクトリーを視察しました。



◆ 12 月（箱根）

箱根ジオミュージアム、箱根町観光協会を視察し、ジオパークを活かした観光地づくりについて学びました。



◆ 2 月（都内）

今年度最後は、東京タワー、水上タクシー、株式会社 JTB、天王洲の寺田倉庫周辺、東京ベイコート倶楽部を視察しました。

山梨大学・南アルプス市の連携による白根高校生の研究成果発表会を開催

2 月 14 日(水)、山梨県立白根高校において、白根高校生の研究成果発表会を開催しました。これは、地域社会システム学科の菊地淑人准教授と南アルプス市の共同研究の一環として、同校の 1 年生 130 人が、高校のある南アルプス市への理解を深め、理想の修学旅行プランを組み立て、地元への観光誘客を図るための「地域観光企画」の策定に取り組んだものです。

初回到菊地准教授が「地域資源を生かした観光地づくり」について講演し、その後はグループに分かれ 6 回のワークショップを行い、1 年間をかけて新たな地域資源の発掘や観光ルートを企画書にまとめ発表しました。発表会の参観者からは高評価の声を多数いただきました。



（ワークショップの様子）

ワイン科学研究センターの鈴木俊二教授と乙黒美彩准教授が鹿児島大学で講義

2 月 15 日(木)、ワイン科学研究センターの鈴木俊二教授（センター長）と乙黒美彩准教授が鹿児島大学で講義を行いました。この講義は、鹿児島大学農学部が開講している集中講座「日本の酒学序論」の中の 2 コマであり、鹿児島大学 焼酎・発酵学教育研究センター、新潟大学 日本酒学センター、山梨大学 ワイン科学研究センターが合同で開講しています。3 センターは今後も、それぞれの分野を融合した新たな研究や学生への教育など、連携活動を推進していきます。

（鈴木センター長の講義「醸造用ブドウとは？」）



ワイン科学研究センターの榎真一助教が「Wine Talk Series 2024」で講演

2 月 15 日(木)、ワイン科学研究センターの榎真一助教が、国際交流基金シドニー日本文化センターが開催したトークイベント「Wine Talk Series 2024 赤、白、ロゼ：日本のワインとワイン造りの祭典」において、自身の研究「甲州ブドウのゲノム解析」について講演をしました。これは、「甲州ワイン」に焦点を当てたイベントであり、対面とオンラインを合わせて約 100 名が参加しました。



令和6年3月

3月8日(金) 定年退職教員を送る会を開催

工学域・生命環境学域定年退職教員を送る会が開催され、本学部からは、3月31日に定年退職される西久保浩二教授と横森洋一教授が出席しました。

西久保教授は「マーケティングと消費者行動」などの経営学を、専門都市、企業で培った豊富な知識と経験、そして情熱によって、学生に教えていただきました。

横森教授は、ワイン科学研究センターのエクステンション活動にご尽力いただき、多くの学生をワイン産業界に送り出しました。

西久保教授、横森教授、本当にありがとうございました。



(学長・理事・両学域集合写真)

日本の酒教育研究プラットフォームのサイトを開設



鹿児島大学農学部附属焼酎・発酵学教育研究センター、新潟大学日本酒学センター、ならびに、山梨大学ワイン科学研究センターの国立大学酒類関連3センターによる「日本の酒教育研究プラットフォーム」のホームページが公開されました。3センターで連携し、酒類学のリーダー育成を目指していきます。
(URL : https://ace1.agri.kagoshima-u.ac.jp/sake_renkei/)

3月22日(金) 卒業・修了式

YCC県民文化ホールにおいて、令和5年度山梨大学卒業式・修了式を挙行し、学部生 771 名、専攻科生 6 名、大学院生 327 名の計 1,104 名が卒業・修了しました。

中村和彦学長が卒業生・修了生代表に学位記・修了証書を授与し、「皆さんが過ごした一日一日が、これからの人生で大切な意味を成すときが必ずやって来ます。コロナ禍での経験をネガティブに捉えず、自信をもって今後の人生を切り開いていただきたいと心から願っております」と式辞を送りました。

卒業・修了生のみなさん、おめでとうございます。



(式辞を述べる中村学長)

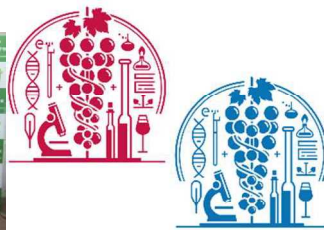
3月22日(金) シン・山梨大学ワインラベルデザイン 受賞者の決定

昨年の11月から12月にかけて募集した「シン・山梨大学ワイン」ラベルデザインの表彰式を行いました。

優秀賞：生命環境学専攻食物・ワイン科学コース 2年 三上法香さん
デザイン説明：中央に主役となるブドウ、周りにワイン作りや研究をイメージさせるアイテム配置することで、すべてを山梨大学で行う「シン・山梨大学ワイン」を表現しています。



(優秀賞：三上さん)



佳作：工学部メカトロニクス工学科 1年 小俣朱璃さん

デザイン説明：甲州の特徴である爽やかな香りと穏やかな酸味というイメージがラベルデザインと一致するように製作。また、大和撫子を彷彿とさせる繊細さを表現しています。



(佳作：小俣さん)



教 員 異 動

令和 5 年 4 月 2 日 ～ 令和 6 年 4 月 1 日

発 令	所 属	職 名	氏 名	発令日
採 用	高度生殖補助技術センター	准教授	かさい しんや 笠 井 慎 也	令和 5 年 10 月 1 日
定年退職	地域社会システム学科	教 授	にしくぼ こうじ 西久保 浩 二	令和 6 年 3 月 31 日
退 職	環境科学科	特任助教	いとう ゆ り 伊 藤 友 里	令和 6 年 3 月 31 日
退 職	地域社会システム学科	特任助教	おかの ち ほ 岡 野 千 帆	令和 6 年 3 月 31 日
昇 任	生命工学科	教 授	やまむら ひでき 山 村 英 樹	令和 6 年 4 月 1 日
昇 任	地域食物科学科	教 授	おとぐろ み さ 乙 黒 美 彩	令和 6 年 4 月 1 日
異 動	環境科学科 → 地域食物科学科	准教授	かたおか りょうた 片 岡 良 太	令和 6 年 4 月 1 日
採 用	環境科学科	准教授	ごとう ゆうこ 後 藤 裕 子	令和 6 年 4 月 1 日
採 用	地域社会システム学科	准教授	いのうえ ともき 井 上 智 紀	令和 6 年 4 月 1 日
採 用	地域社会システム学科	特任助教	さいとう たろう 齊 藤 太 郎	令和 6 年 4 月 1 日